

平成25年度

事業計画書

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

誓願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に祈りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに

平成25年度 基本方針

手をつなぎ、心を合わせ 進めよう“幸せの種まき運動”

昨年度は世界中が不況の波に襲われ、日本においてもその影響を受け、円高、デフレが止まらず、中国との関係悪化もあって経済的に大変厳しい年でした。政治的にはねじれ国会の影響から、与野党間での政争に終始し、何も決まらない状況が続き、12月の衆院総選挙において民主党から自民党へ政権交代となりました。

このような経済的、政治的低迷の中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれによって引き起こされた福島原子力発電所事故の被災地、被災者への復興、支援がなかなか進まず、多くの被災者の方々が未だに仮設住宅に住みご苦労をされているのが現実です。

こうした中、修養団では引き続き被災者の方々を少しでもお助けしようと、石巻のボランティアハウスを活用した「SYD復興ボランティア隊in石巻」を16回、「青少年炊き出しボランティア実践隊」を10回実施、その他被災された子どもたちをキャンプに無料招待するなど、多くの参加者と手をつなぎ、心を合わせて積極的に被災者支援活動を行い“幸せの種”をまき、心の絆を結んできました。

この他、8年目を迎えた「出前講座“幸せの種まきキャンペーン”」も各地で好評を得、また社会人対象の「愛と汗の講習会」も参加者が増えて参りました。

そこで平成25年度の基本方針を「手をつなぎ、心を合わせ 進めよう“幸せの種まき運動”」とし、今年度も被災者支援活動を継続して行うと共に、各種の事業を通して一人でも多くの人と手をつなぎ、心を合わせて「こんにちは！どうぞ！ありがとう！」の“幸せの種”を一粒でも多くまいていくように注力していきます。

経済的にも、政治的にもそして社会的にも混迷状態にある日本ですが、このような時だからこそ「愛と汗」の精神の具体的行動として“幸せの種まき”をし、心を豊かにしていく事が求められます。

平成25年度も修養団の役職員、会員、同志が率先して、一人でも多くの人と手をつなぎ、心を合わせて“幸せの種まき運動”を力強く、積極的に進めていき、一輪でも多くの幸せの花が咲くように努力して参ります。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の未来を担い将来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図る。また、東日本大震災被災者に対する支援活動を愛と汗の実践活動として継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗”の精神に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活やさまざまな自然体験活動をとおして、心のバリアフリー化を図り、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. 子どもゆめ基金助成活動「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援》

期 日 8月 <各3泊4日>

開催数 4会場（あっさぶ・桧原湖畔・いばらき・沖縄）

*桧原湖畔・沖縄キャンプは昨年度同様、被災者各20名を招待。

スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20～25名

対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒

募集人員 各50～70名

イ. SYD主催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 8月 <各3泊4日>

開催数 2会場（富士山・関西）

スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20～25名

対 象 小学2年生～中学3年生の児童生徒

募集人員 各70～100名

ウ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日～4泊5日>

開催数 7会場（美幌・房総・岐阜・広島・山口・北部九州・鹿児島）

スタッフ等 各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名

対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒

募集人員 各50名～120名

エ. 子ども自然体験キャンプ担当者会議《子どもゆめ基金助成活動》

期 日 6月下旬 <1泊2日>

開催数 1回

スタッフ等 SYD指導者等4～5名

会 場 SYD会議室又はばんだいふれあいぴあ

参加者 20名（キャンプ実施担当者）

オ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日 6月～7月 <各3泊4日>
開催数 4会場
派遣講師 各1名

カ. 印刷物の作成

①子ども自然体験キャンプリーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》

部 数 15,000部
体 裁 A2版、4色刷り

②子ども自然体験キャンプ報告書の作成

部 数 1,200部
体 裁 A4版、80頁

(2) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 東日本大震災被災者招待/冬期子ども自然体験（スキー）キャンプ

開催数 2回（12月、3月） <各4泊5日>
会 場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場
スタッフ等 各スキー指導員2名、SYD指導者3名（事務担当者含）、
リーダー20名（高校生・大学生）
対 象 小学1年生～中学3年生
募集人員 各キャンパー30名・被災者招待10名

(3) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所との共催事業）

開催数 2回（7月～8月） <各2泊3日>
会 場 伊勢青少年研修センター
対 象 小学生
定 員 各100名
予定団体 (社)伊勢青年会議所、(社)岸和田青年会議所

(4) 40kmナイトウォークの集い

開催数 1回（9月）
会 場 伊勢青少年研修センター他
対 象 小学3年生以上の子供・一般
定 員 100名
内 容 40kmの夜間歩行

2. 子どもボランティア活動推進事業

(1) 東日本大震災被災者支援/青少年仮設住宅訪問（炊き出し）ボランティア

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

中学生・高校生が中心となって被災者の暮らす仮設住宅を訪問し、食事を提供する活動等を実践することにより、ボランティア活動の真の喜びを肌で感じ、青少年の豊かな感性を磨き、相互理解を深め、苦しみを分かち合い、社会の一員であることを実感するなどの体験をとおして、思いやる心や豊かな人間性・社会性、自ら考え行動できる力を育むことを目的に実施する。

期 日 通年 <各2泊3日>
開催数 年6回(3連休や期間休みに実施)
開催地 活動拠点:ばんだいふれあいぴあ
活動先:震災仮設住宅(宮城県石巻市・名取市、福島県新地町等)
対 象 真に被災者のことを考え行動できる青少年
募集人員 各回共リーダー 5名(大学生等青年)
参加者15名(中学生～高校生)

(2) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

地域、学校(生徒会・ボランティア部)、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介するなど、ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解する機会を提供し、このことにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親への感謝など、“青少年の豊かな心”を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」の実施

期 日 通年
開催数 全国60～80会場
実施組織 学校(生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等)、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、連合会等組織
派遣講師 各2～3名 ※フィリピンでのボランティア経験者(学生含)
実施概要 (1)参加者 15名以上
(2)プログラム 90分(標準) 他

イ. パンフレットの作成・配布

部 数 18,000部
体 裁 A4版、8頁、4色刷り
配布先 18,000カ所

(3) 子ども週末体験活動《子どもゆめ基金助成活動》

週末や連休などの休日を利用して、講話や体験活動・創作活動などのワークショップを行い、地域の歴史・文化、特産品(物産・料理や工芸・民芸品等)や地域社会活動についての理解を深め、地域社会への安心感(絆)を深めるための事業を行う。

ア. 絆を深めよう!子ども学VIVA

開催数 全国8～10会場(原則として1日から1泊2日)
期 間 5月～平成26年3月
スタッフ 各SYD指導者1名、開催地責任者1名
リーダー 各8～10名(高校生大学生等の青年)
募集人員 各20名～50名(小学校1年生～中学3年生)

イ. 子ども^{まなび}VIVAリーダー研修会

開催数 全国8～10会場（原則として1泊2日）
期間 5月～平成26年3月
対象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年
募集人員 各20名程度

3. SYD指導者の養成

各種体験活動においてリーダーとして活動している、あるいは今後リーダーを目指す中学生・高校生・大学生等の青少年を一堂に会し、自然体験や社会奉仕体験などさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、年間をとおして体験活動を展開するSYD指導者の養成に努める。

(1) 全国青年ボランティア・アクションin福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

福祉・震災ボランティア活動の心構えや福祉ボランティアの基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設、震災で避難生活を余儀なくされている仮設住宅等での社会奉仕体験活動を実践し、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得することによりボランティア精神を涵養し、指導者としての資質の向上を図る。

開催数 2回<各5泊6日>
期 日 ①7月26日（金）～31日（水）
②平成26年3月30日（日）～4月4日（金）
会 場 福島県及び被災地（宮城県石巻市・名取市、福島県新地町）
スタッフ等 各SYD指導者等5名
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年
募集人員 各25～30名

(2) 全国青年ボランティア・フェスティバル《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

大きな被害をもたらした東日本大震災。これを機に多くの青少年が震災ボランティアに参加するなど被災者への支援活動を行ってきた。震災ボランティアを通じての若者たちの学び、あるいは身近にできる地域ボランティアへの取り組み等について、ボランティア体験者や初心者が共に学び合い、今後の更なる取り組みやネットワークづくりを推進する。

期 日 11月2日（土）～4日（祝・月） <2泊3日>
会 場 国立または県立青少年自然の家・青少年交流の家等の公共施設
スタッフ等 SYD指導者等5名
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年
募集人員 40名

(3) 報告書の作成

部 数 1,000部
体 裁 A4版、56頁

(4) SYD指導者資格認定制度

自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目指し、指導者資格証を発行するなど、SYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

4. 青年組織育成

“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図り、本部と各地青年部間の連携を密にし、情報交換を行い、青年部活動の活性化と連携を図るための協議を行う。また、SYDの理念を学ぶと共にさまざまな体験活動やその展開方法について学習し、年間を通して体験活動を展開する組織の育成、充実に努める。

(1) SYDキャンプアカデミー《子どもゆめ基金助成活動》

ア. モデル事業の実施

開催数 年3～5回 <各1泊2日>
会場 SYD会議室、公共施設、ばんだいふれあいぴあ等
対象 SYD指導者をめざすキャンプリーダー等の青少年
参加者数 15～20名

イ. 準備委員会の実施

開催数 年2回 <各1泊2日～2泊3日>
会場 SYD会議室、公共施設、ばんだいふれあいぴあ等
対象 SYD青年部組織の代表者等の準備委員
参加者数 15名

(2) 青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開催数 年8～10回
講師 各1名(国内外のボランティア経験者等に委嘱)
会場 SYD会議室
対象 東京近郊の青年リーダー
募集人員 各20名

(3) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。

ア. 指導者の派遣

派遣回数 10～15回
派遣期間 2泊3日～4泊5日

イ. 青年組織活動への助成

5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

II. 国際交流

1. 青年ボランティア・アクション in フィリピン

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ捨て場で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。以上のことにより、日本の青少年の国際的視野を広げ、国際協力の精神を涵養し、国際協力における実践力を培い、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日 8月下旬 <6泊7日間>

訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等

ス タ ッ フ 2名

参 加 者 25名（ボランティア活動に強い関心があり、ボランティア活動指導者を目指す中学生及び高校生以上の青年、満15歳以上から35歳位まで）

主な日程 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動やボランティア活動等

2. ブラジルとの指導者交流事業

(1) ブラジルへの指導者派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 1月～2月 <40日間>

派 遣 者 SYD講師1名

(2) ブラジル青少年指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修することにより、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

期 日 7月中旬～8月中旬 <26日間>

招 聘 者 青年リーダー 1～2名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

III. 講習会・講演活動

企業・団体等の社員、または個人を対象に「良き企業人である前に、良き社会人であれ」をモットーに、「愛と汗」の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

1. 伊勢講習会

(1) みがく講習会

期 間 4月～平成26年3月 <各3泊4日>

開 催 数 10回

定 員 各50名

(2) みがく特別講習会

期 間 平成26年2月 <各1泊2日>

開 催 数 3回

定 員 各100名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会 (定員：①+② 150名)

期 日 ①10月15日～17日<2泊3日>・・初穂曳き・神嘗祭コース

②10月16日～17日<1泊2日>・・神嘗祭コース

イ. 初詣新春の集い

期 日 平成26年1月

定 員 80名

ウ. 御白石持行事特別講習会 (新規)

期 日 7月～8月 <各1泊2日>

開 催 数 5回

定 員 各150名

(4) 受託講習会

ア. 3泊4日コース

開 催 数 1回 (平成26年2月)

定 員 60名

実施予定企業＝東芝テクニカルスクール

イ. 1泊2日コース

開 催 数 7回 (通年)

定 員 30～150名

実施予定団体＝伊勢志摩リハビリテーション専門学校、伊勢の風を感じる会、春風塾、
神話を体感する会、豊田自動織機技能専門学園研修会、千葉・東京他倫
理法人会研修、「教師のみそぎ」研修会

(5) 一般講習会

開 催 数 4回 (通年)

定 員 20～50名

実施予定団体＝日本尺八連盟、天風会行修会、志ネットワーク青年塾、ゼルネットワーク
西日本

(6) 講演活動

一般企業・青年会議所・PTA・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区講習会

(1) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりを目的としたセミナー。

期 日 4月 <2泊3日>
会 場 福島県下
定 員 50名

(2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、心身をリフレッシュさせ、新たな活力を生むことを目的としたセミナー。

期 日 平成26年2月 <2泊3日>
会 場 福島県下
対 象 18歳以上
定 員 40名

3. 受託セミナー

多様な企業の要望に応えるセミナーを企画し、企業が求める人材育成に貢献する。

実施予定回数 70回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心” “信じ合う心” “感謝の心” の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を保つことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にするための心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

一社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・斡旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等へのプログラムを企画立案し指導者派遣の一層の充実を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭力アップ・セミナー 【新規】

親として、祖父母として、あるいは家族の一員として明るい家庭を築くにはどうしたらよいか、思いやりに溢れた社会をつくるためにはどう働きかけていくのか、そのための生き方を見直すとともに、日常の生活習慣を改善する取り組みの動機づけをして家庭力アップを図ることを目的に、「幸せの種まき運動」の一環として実施する。

セミナーでは、講演とワークショップを通して、家庭や地域、職場での「幸せの種まき」となる具体的な実践項目を提案する。

実施団体は、修養団の連合会・クラブや幼稚園・保育園等とし、実施団体との連携・協力によって広く参加を呼びかける。

開催数	15会場	〈各半日〉
期間	9月～平成26年3月	
参加者	各30～100名	
講師	各1～2名	

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、下記事業を展開し、「幸せの種まき運動」を推進する。

(1) 愛汗実践塾

「愛と汗」を基本とした修養団の理念を学び、「幸せの種まき」を実践するための意識を高める機会として、連合会・クラブを実施団体として研修会方式を用いながら各地で開催し、会員組織の活性化や会員拡大を図る。

開催数	7会場	〈各1日〉
参加者	各10～30名程度	
講師	各2名	

(2) 第5回「チャリティーバザーと演芸会」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日	6月22日(土)	
会場	SYDホールほか	

(3) 第10回「平田康子チャリティーJAZZコンサート」 — ストリートチルドレン支援 —

開催月	10月4日(金)	
会場	SYDホール	

(4) SYD東北復興プロジェクト

平成23年8月より石巻に活動拠点となるアパート(通称:SYDボランティアハウス)を借り上げ、ハウスの貸出と「SYD復興ボランティア隊 in 石巻」の主催事業を行ってきたが、今年度は7月までの予定でプロジェクト事業を継続実施する。活動内容については、従来の瓦礫撤去・分別、農業・漁業支援以外にも被災地のニーズに応えるものを行う。

2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 第2回「全国修養団運動推進会議」

各連合会・クラブの活動を活性化する上で、事業や日常活動を具体的に展開するための協議を行うとともに、各会員組織間の情報交換を行う。

開催日 6月1日(土)

会場 SYDホール

参加者 主な連合会・クラブの代表者またはそれに準ずる人 35名

(2) 講師等の派遣

派遣数 25回程度(随時)

(3) 連合会等主催「皇居勤労奉仕」への支援

連合会等による皇居勤労奉仕の実施を支援し、要請によって職員を派遣する。

実施数 2回(各4泊5日)

(4) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日(8月を除く)に各1,200部発行し、各会員組織等に配布する。あわせて、ホームページでも全記事を掲載して広報する。

(5) 諸団体との連携

社会教育関係団体との連携を図る。

VI. 幸せの種まき献金活動

海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内における被災者、福祉施設等を支援するため、募金活動等を行う。

1. 募金活動

「幸せの種まき献金箱」の配布、ホームページや機関誌での広報などによって、会員組織を通じて会員などに呼びかけると共に、諸事業参加者等にも広く協力を呼びかけることによって、積極的に募金活動を展開する。また、献金活動促進のため活動報告書などを作成し、配布する。

2. 支援活動

フィリピンをはじめとする海外のストリートチルドレンへの支援活動を行う。また、国内の被災者や福祉施設等への支援も必要に応じて行う。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

「幸せの種まき運動」を推進する修養団の機関誌にふさわしい連載や随想を著名人や文筆家、会員、協力者に執筆いただき、「愛と汗」の精神や生きていく上で大切なことを学べる誌面作りに努める。合わせて、修養団の事業や会員組織の活動をわかりやすく紹介していく。

(2) 『愛』

親と子、家族、さらには身近な青少年たちの絆を深めるために役立つ「幸せの種まき」を実践するための誌面作りに努める。

2. 平成26年版「日々の力」の制作・販売

日常生活に役立ち、「幸せの種まき」の意識を高める日々の言葉に、美しい絵柄を加えてデザインし制作する。会員や事業参加者はもとより、新たな関係企業・個人へも働きかけ、販売の拡大を図る。

タイトル 集まれ 元気
絵と文字 佐藤和喜（墨彩画家）
販売目標 17,600部（制作18,000部）

3. 教育図書の普及、教材の販売

『人生のことば365日』、『すべては今のためであったこと』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢研修センター

(1) 施設運営

- ア. 講習会を事業の中心として運営する。
- イ. 施設の有効活用を図る。貸し会場としての受け入れを進める。
- ウ. 施設利用の団体に、愛と汗の精神に基づいた本団教育プログラムを取り入れていただくように働きかける。
- エ. 地域の各団体との連携を密にし、各事業を展開していく。

(2) 出版広報活動

- ア. ホームページ等を充実させ、センターの事業及び講習会の情報発信・広報に努める。
- イ. 『向上』『愛』誌を通じて活動の報告、広報活動に努める。
- ウ. 各講習会、青少年育成事業などの発信に新聞等メディアの協力を仰ぐ。
- エ. センター各施設の案内パンフレットを作成する。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として有効活用を努める。
- ・施設の整備を行い、利用者拡大を図る。

4. 関西会館

- ・テナントスペースの利用者の募集を行い、施設の有効活用、適正管理に努める。

IX. 表彰

1. 第8回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞(文部科学大臣賞)贈呈式

表彰式 平成26年2月11日(予定)
会場 SYDホール

(2) SYDボランティア奨励賞・パンフレット配布

体裁 A4版、2頁、4色刷
部数 18,000部
配布先 18,000ヵ所

2. 平成25年度修養団年次功労者表彰

X. 関係機関・団体、教育界との協力・連携活動

青少年教育及び社会教育の関係機関、諸団体並びに各地の教育委員会や学校、教師への積極的アプローチを推進し、連携を図り、協力し合って活動を展開する。